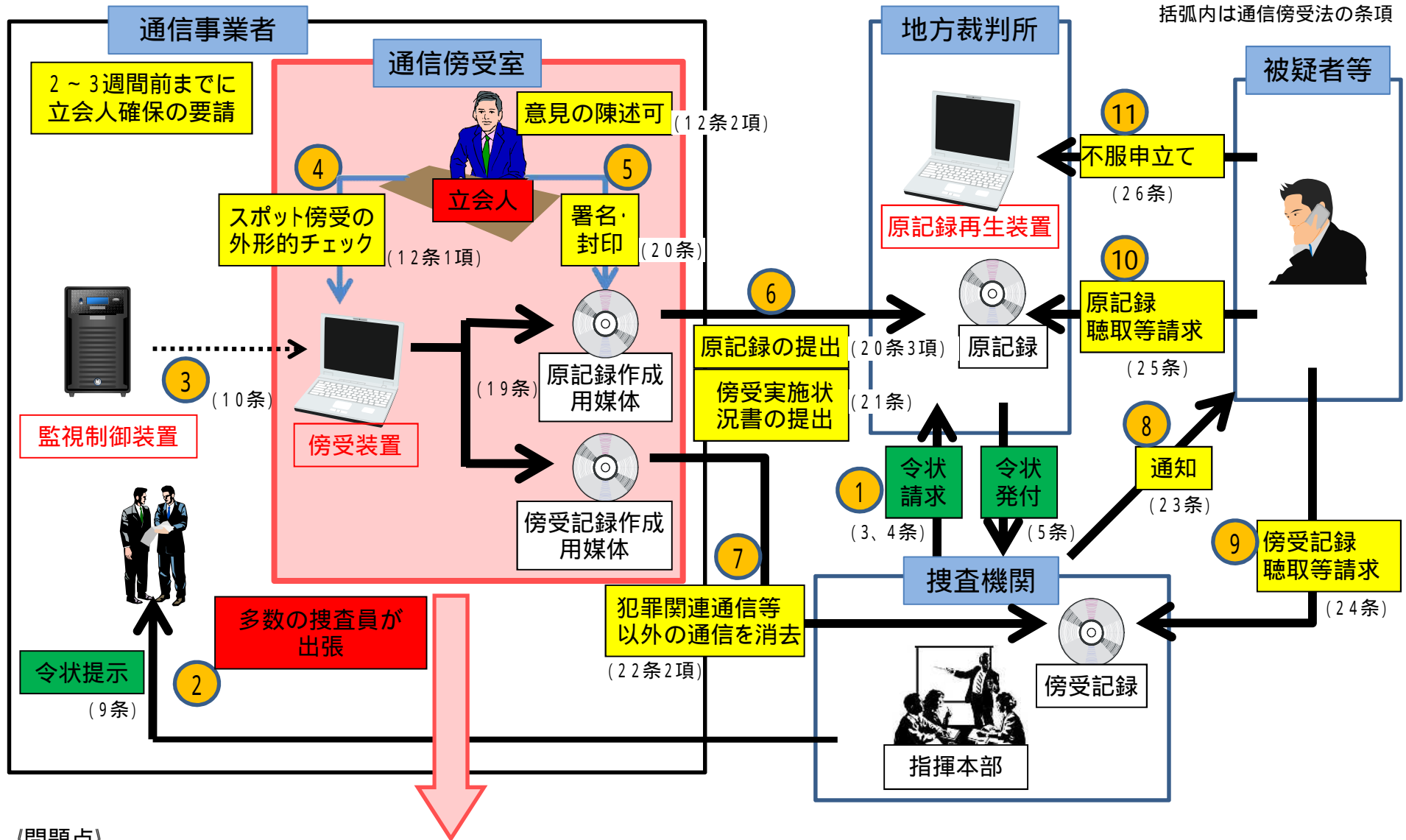


現行通信傍受法における傍受実施手続

資料1

括弧内は通信傍受法の条項



(問題点)

実施直前の要請、深夜・早朝の実施では立会人確保が困難であり、捜査上の支障大
事業者施設以外では実施できず捜査体制の負担大

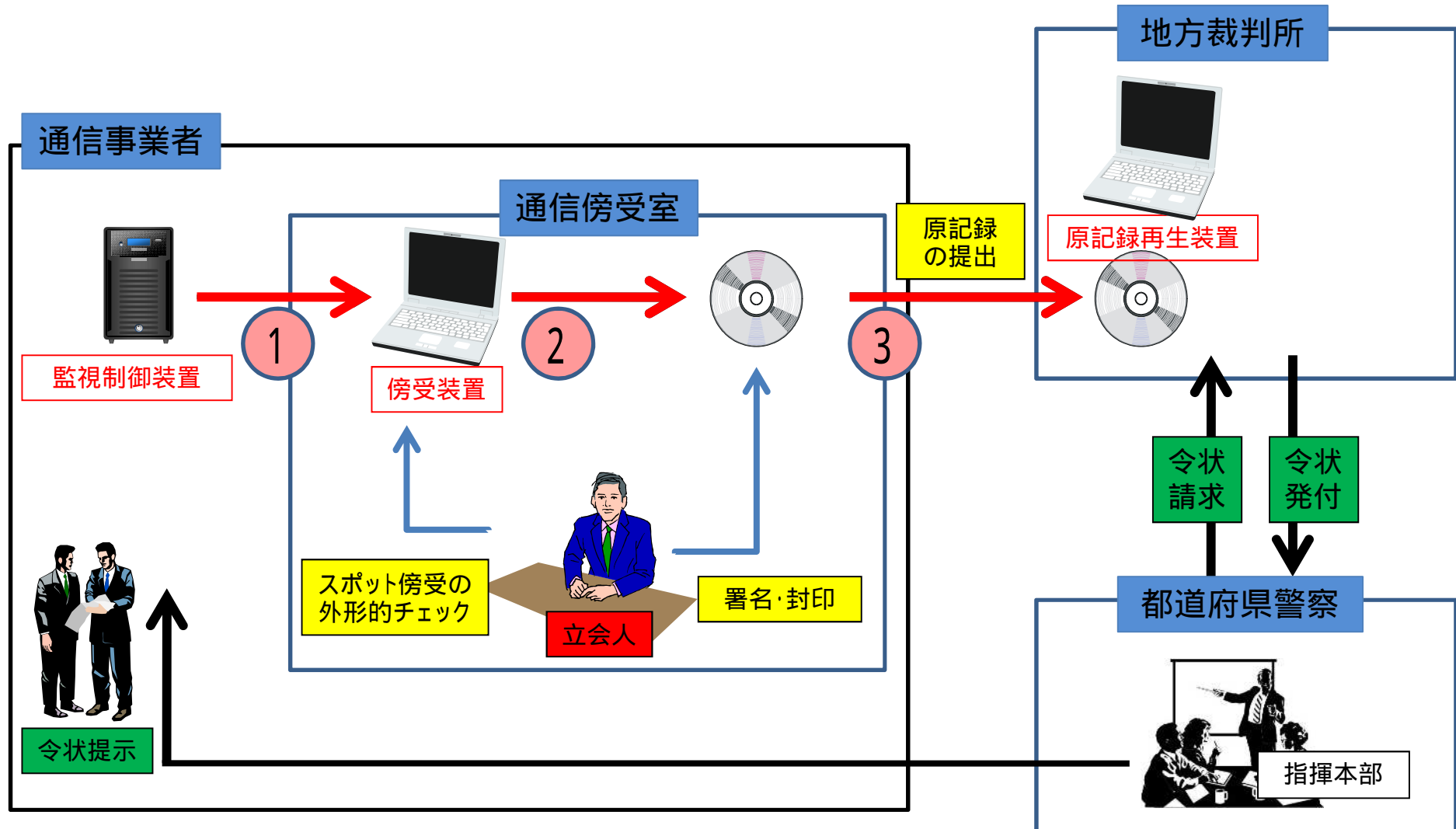
現行通信傍受法における不正の防止

資料2

通信事業者施設内での傍受実施 → 通信データの改ざん等は不可能

立会人による常時立会い → スポット傍受の適正な実施

立会人による署名・封印 → 原記録の改ざんは不可能(傍受内容の検証が可能)

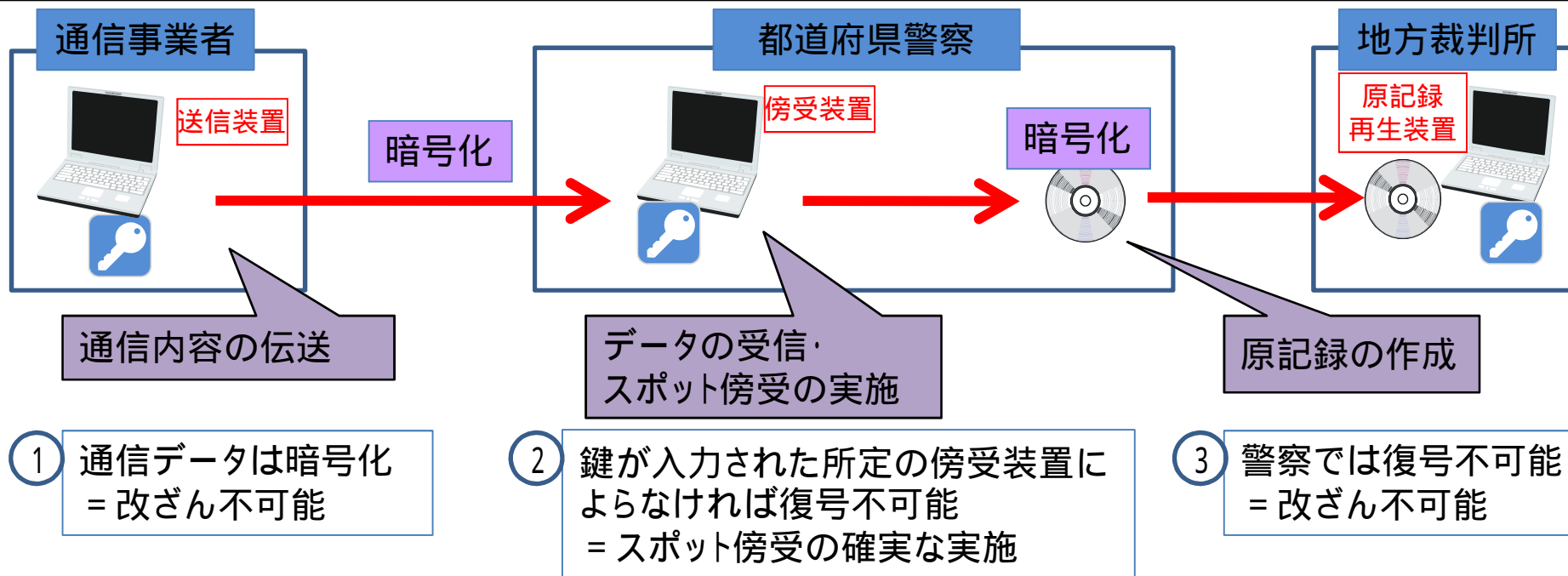


検討中の傍受システムによる傍受のポイント

資料3

・立会人を置かずに、警察施設で傍受を実施する

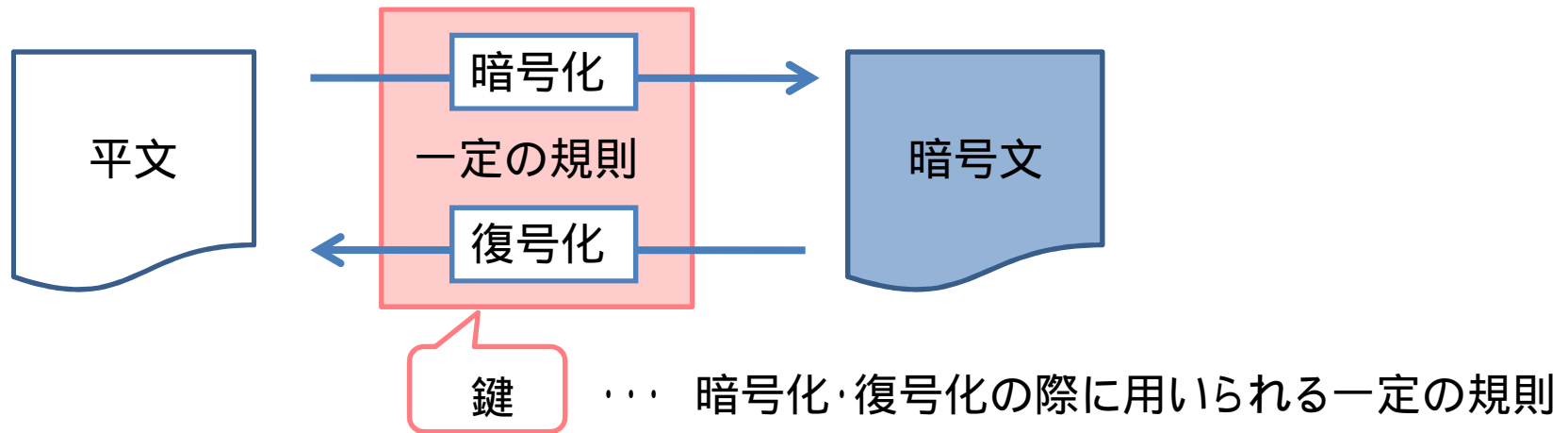
不正を防止する技術的措置



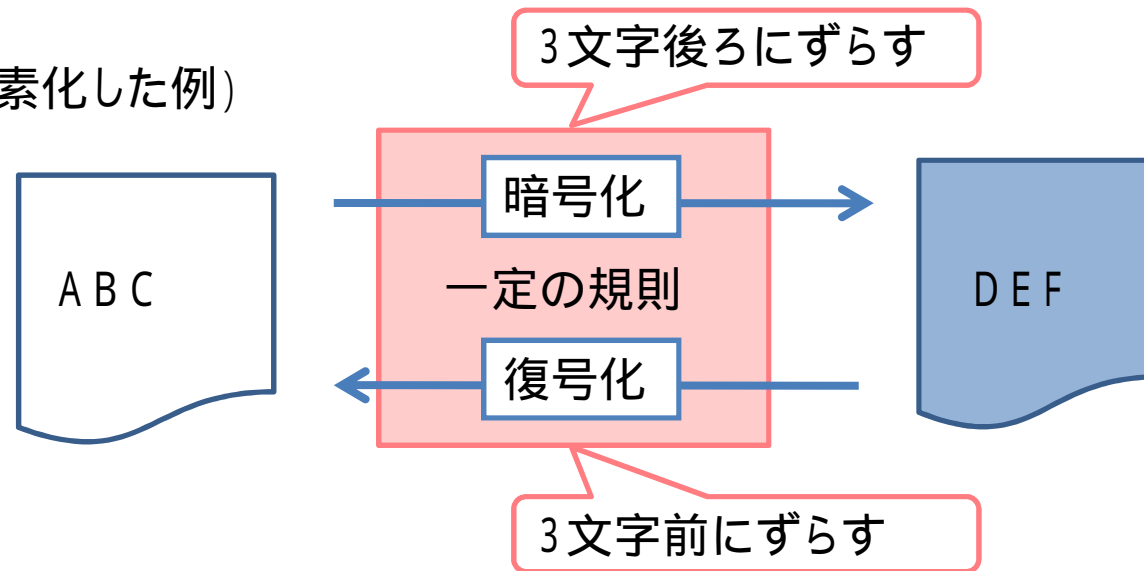
《鍵の管理》

- ・通信事業者・裁判所 : それぞれの機関で適切に管理
- ・都道府県警察 : パソコンの揮発性メモリにアドレス指定で書き込み
➡ 正規の傍受ソフトのみで作動、鍵の取り出しは不能

暗号化・復号化に用いる鍵



(極めて簡素化した例)



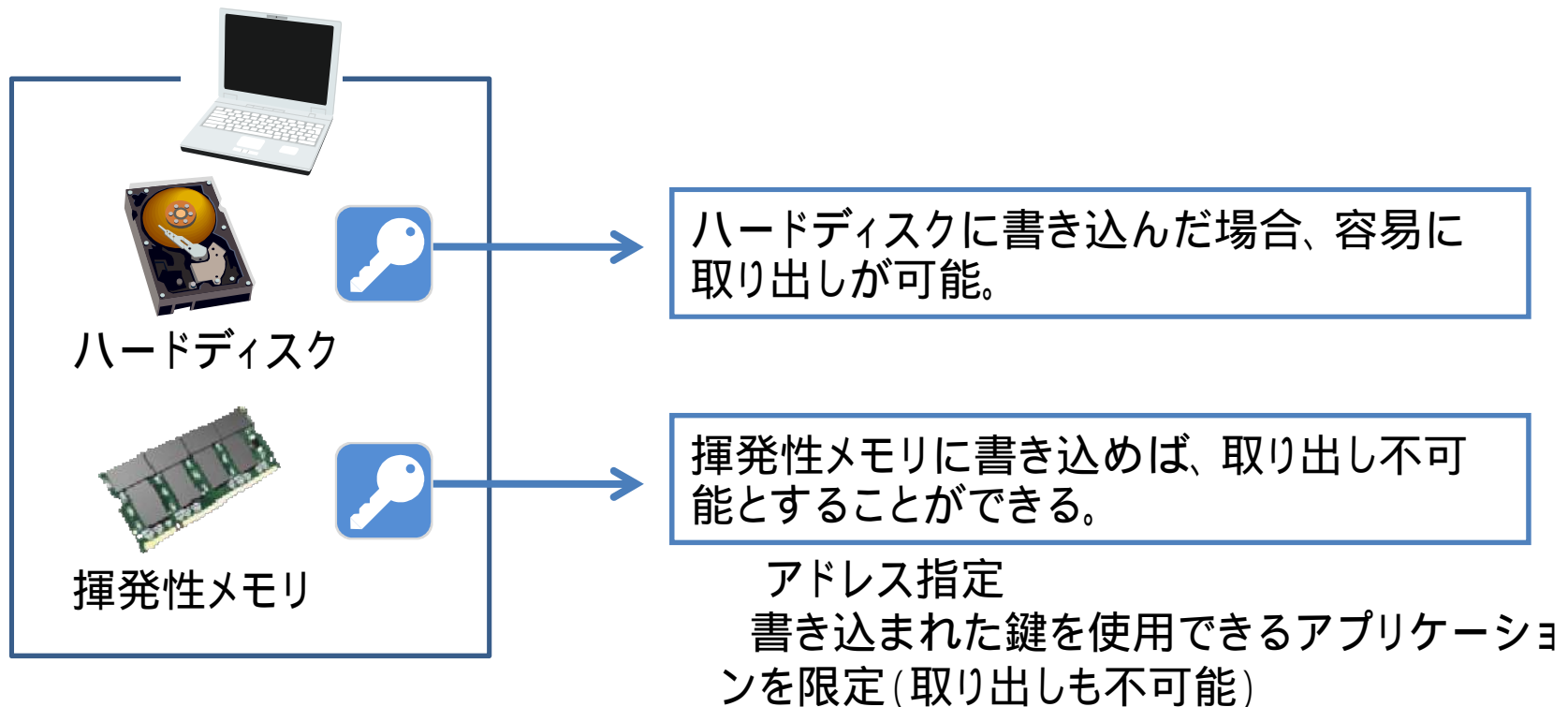
傍受装置に入力した鍵を取り出せなくする方法

揮発性メモリ

コンピュータで使われるメモリの一種で、電源を供給しないと記憶している情報を保持できないメモリの総称。

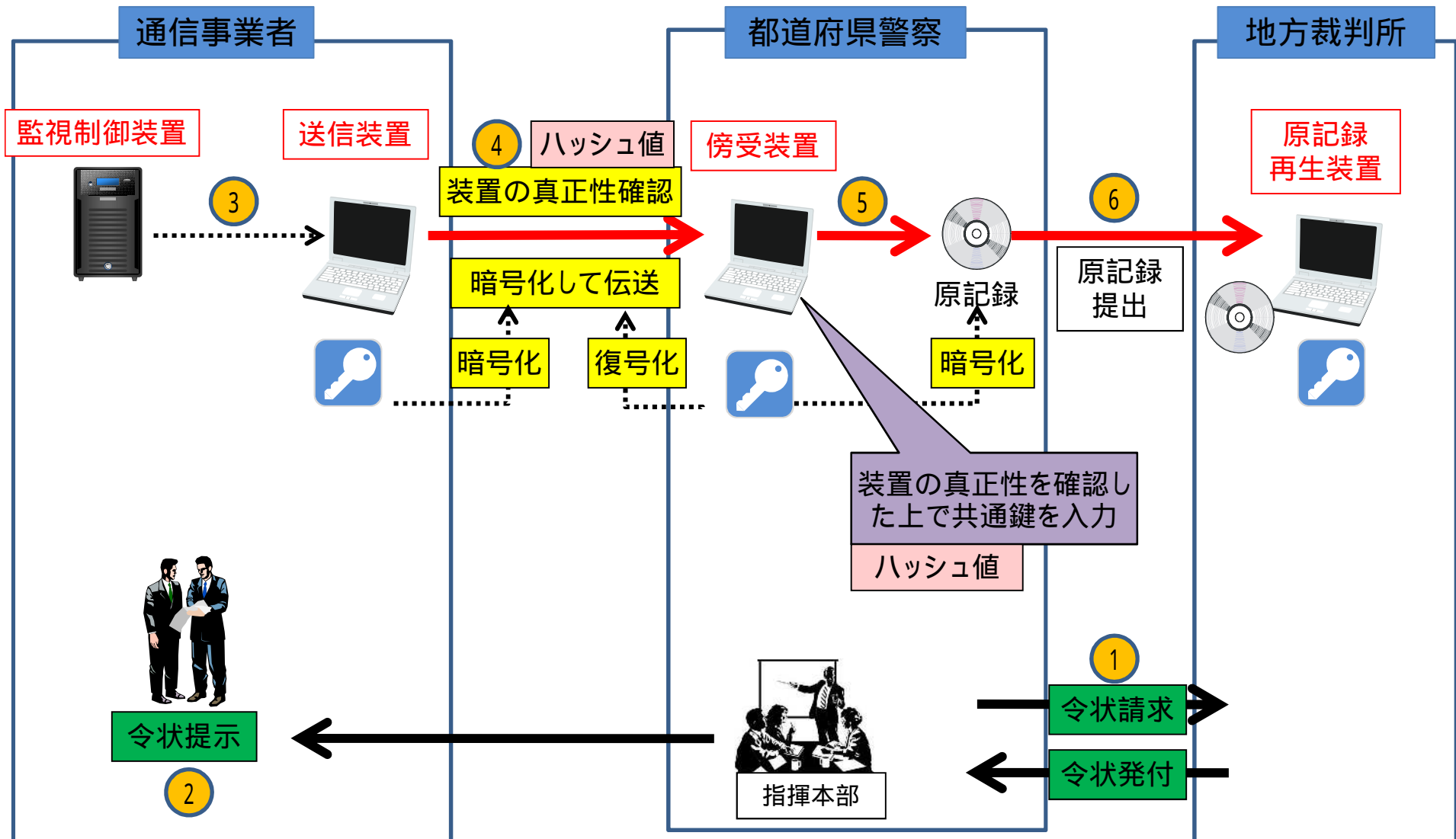
(例) RAMなど。

(参考) 不揮発性メモリ 電源を供給しなくても情報を保持(例: USBメモリ)



検討中の傍受システムにおける傍受実施手続

資料6



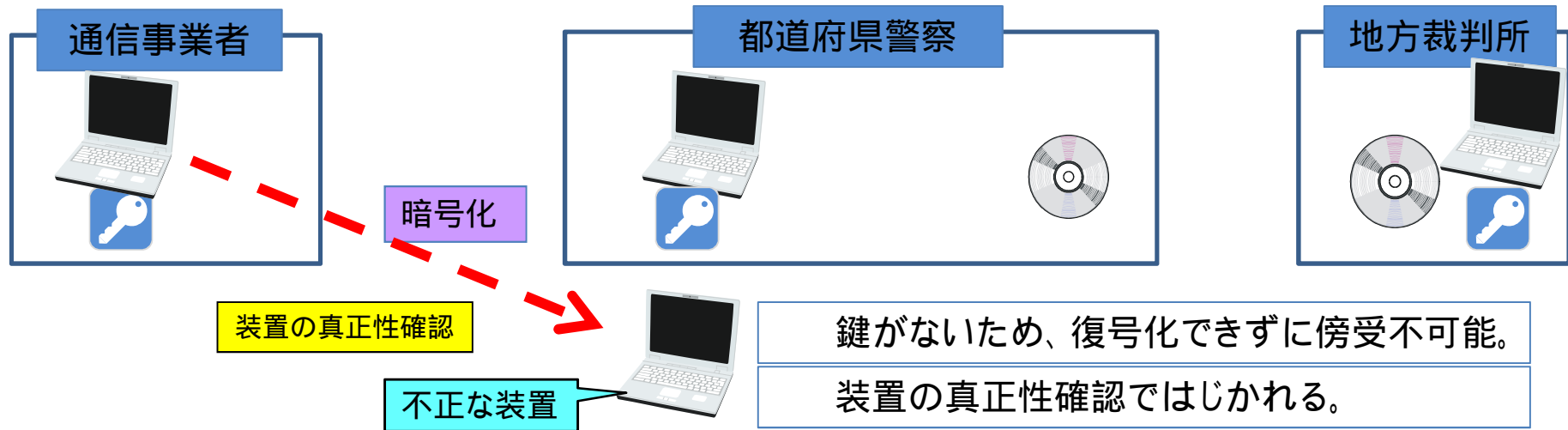
暗号化・復号化の鍵により傍受の技術的安全性が飛躍的に向上
立会人確保が不要となり、通信事業者の負担と捜査上の支障が解消
各都道府県警察施設で実施可能となり、捜査体制上の負担が解消

検討中の傍受システムにおける不正の防止(1)

資料7

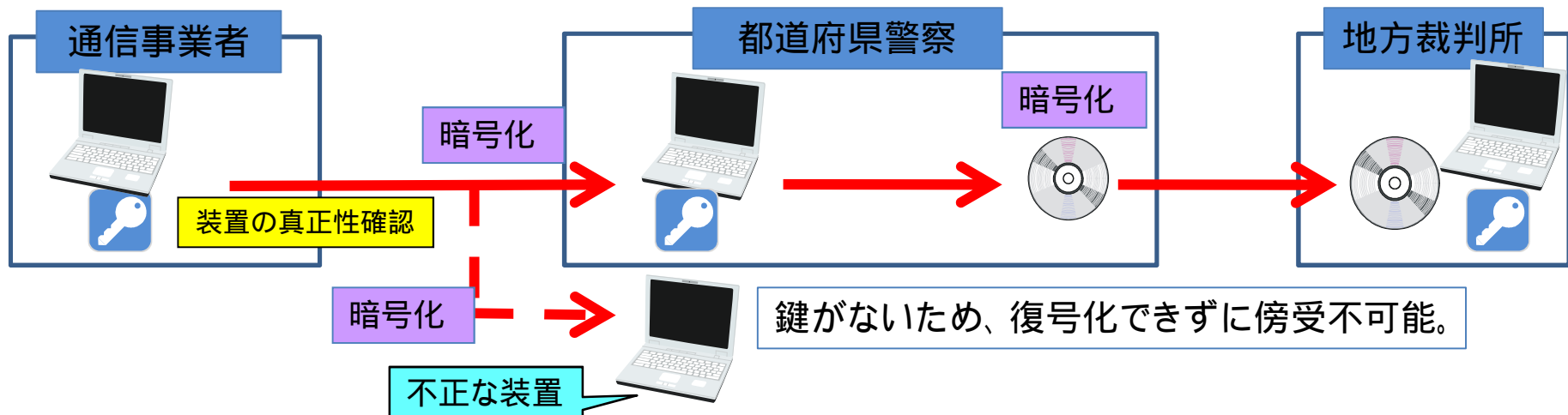
《想定される不正(1)》

所定の傍受装置を使わずに、別の不正な装置を使って、全通話を傍受する。



《想定される不正(2)》

所定の装置の使用と同時に、通話内容を別の不正な装置にも送信させ、全通話を傍受する。

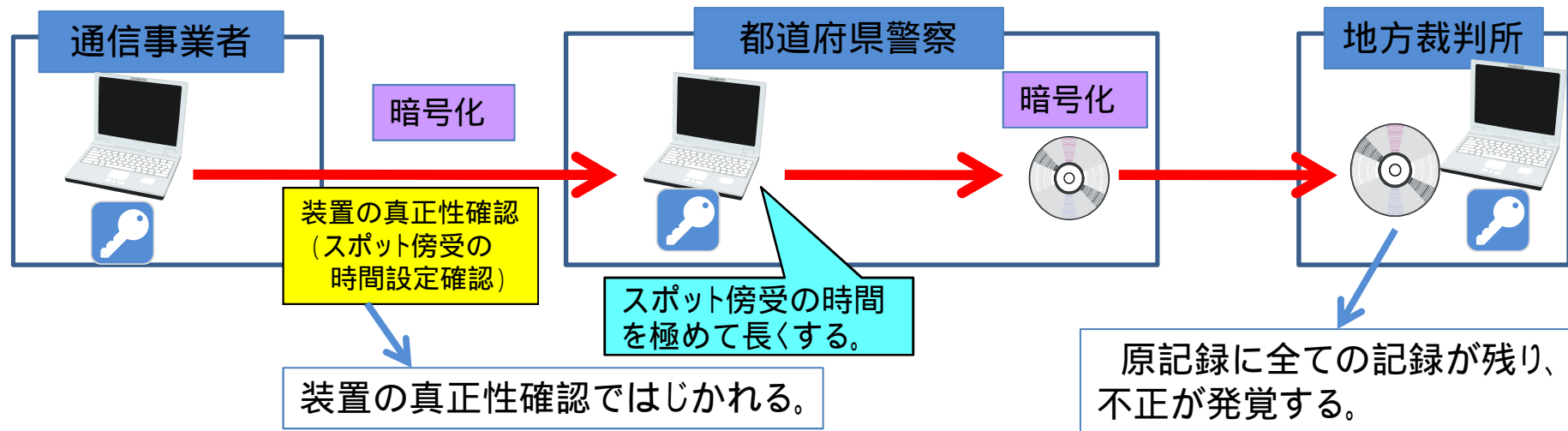


検討中の傍受システムにおける不正の防止(2)

資料8

《想定される不正(3)》

所定の傍受装置を使うが、スポット傍受の時間を極めて長くして、全通話を傍受する。



《想定される不正(4)》

原記録媒体の内容を改ざんする。

